

# 参考資料：デザインファクター1 (DF1)のアウトプット計算例

出版本のP118の「(1)DF1(事業体戦略)の処理」の補足説明です。

## マネジメント目標—BAI01を参照して計算例を以下に示す。

参照するテーブルは、図表3-5 DF1:事業体戦略 の入力とマッピングテーブルの「DF1:事業体戦略 の入力」と「DF1:事業体戦略 のマッピングテーブル」を用い、図表3-6 DF1:事業体戦略—ガバナンスとマネジメント目標重要度計算結果を算出するロジックです。

### 1. 基準スコア: マッピングテーブルでの関係強度値から算出する。

- ①DF1の関係強度は、「成長/買収」、「イノベーション/差別化」、「コストリーダーシップ」、「顧客サービス/安定性」のそれぞれ「4.0」、「2.0」、「1.5」、「1.5」が割り振られている。
- ②DF1の重要度値=(マッピングテーブル関係強度値の和) \* 3 = (4.0 + 2.0 + 1.5 + 1.5) \* 3 = **27**

### 2. スコア: マッピングテーブルの関係強度値と優先度から算出する。

- ①DF1の重要度は、それぞれ「4.0」、「2.0」、「1.5」、「1.5」が割り振られている。
- ②入力の優先度は、「成長/買収」、「イノベーション/差別化」、「コストリーダーシップ」、「顧客サービス/安定性」のそれぞれ「1」、「5」、「1」、「5」である。
- ③DF1の重要度値 =  $\Sigma$ (マッピングテーブル関係強度値 \* 入力優先度)  
= 4.0 \* 1 + 2.0 \* 5 + 1.5 \* 1 + 1.5 \* 5 = **23**

### 3. 相対的重要度: スコア値と基準スコア値の差分から算出する。

DF1の相対的重要度 = (スコア値 - 基準スコア値) \* 5 = (23 - 27) \* 5 = **-15**

### 4. DF1の相対重要度グラフ: 「3. 相対重要度」をグラフへ繁栄する

### 5. 初期範囲デザインの相対重要度グラフ計算値 (Step summary2)

4つのデザインファクター(DF1,DF2,DF3,DF4)を合計し、最大値を100点として比例調整を行った値で「グラフにする。」

## 図表3-5 DF1:事業体戦略 のインプットとマッピングテーブル

### ◆DF1:事業体戦略 のインプット

評価	重要度 (1-5)	基準
成長/買収	1	3
イノベーション/差別化	5	3
コストリーダーシップ	1	3
顧客サービス/安定性	5	3

### ◆DF1:事業体戦略 のマッピングテーブル

**図表 A.1-事業体戦略 – ガバナンスとマネジメントの目標とのマッピング**

DF1	成長/買収	イノベーション/差別化	コストリーダーシップ	顧客サービス/安定性
EDM01	1.0	1.0	1.5	1.5
....	....	....	....	....
APO01	1.0	1.0	1.0	1.0
....	....	....	....	....
BAI01	4.0	2.0	1.5	1.5
....	....	....	....	....
DSS01	1.0	1.0	1.0	1.5
....	....	....	....	....
MEA01	1.0	1.0	1.0	1.0
....	....	....	....	....

ガバナンスとマネジメント目標

この行を参照



出典: COBIT2019デザインガイド 情報と技術のガバナンスソリューションの設計 ISACA

# 図表3-6 DF1:事業体戦略ーガバナンスとマネジメント目標重要度計算結果

